

審査結果報告書

平成 30 年 2 月 9 日

主 査 氏 名

阿古 理子



副 査 氏 名

岡本 浩司



副 査 氏 名

宮地 鏡



副 査 氏 名

三枝 信



1. 申請者氏名 : DM14006 江波戸孝輔

2. 論文テーマ :
川崎病に対する免疫学的、臨床的評価

3. 論文審査結果 :

川崎病は原因不明な小児期の急性熱性疾患である。免疫学的機序がその病態生理として考えられているものの、その詳細については未だ解明されていない部分が多い。申請者は、川崎病患者 63 例を対象とし、診断時、初回治療後の血液を採取し、NIH が提唱するヒト PBMC(末梢単核球)サブセット標準化プロトコールを参考に FACS をおこなった。対象として、熱性疾患患者 21 例、健常児 21 例を用いた。川崎病急性期には活性化 T 細胞の割合は高知で、急性期から亜急性期にかけて HLA-DR+Th17 が有意に上昇していた。次に、川崎病の初回免疫グロブリン大量投与治療に対する不応例でのステロイドパルス併用療法の有効性および安全性を川崎病症例 365 例中の 71 例のグロブリン療法無効例について検討した。冠動脈瘤の合併は認めず、冠動脈瘤予防効果が示唆された。当論文では、いまだ原因が不明である川崎病に対して、自験例から免疫学的機序の解明を試みており、臨床的にも重要な所見である。さらに、グロブリン療法無効例に対して新たな治療レジメンを提唱しており、臨床的にもインパクトがある。学位論文は臨床データを用いた科学研究手法に則っている。また、公開審査では、申請者は副査および主査からの質問に適切な応対が可能であった。副査および主査は、学位論文の内容の高さおよび質疑応答の的確さから医学博士の学位にふさわしいと判断した。